

8月例会アワー ～家族ぐるみで防災体験～（報告ダイジェスト）

事業目的 「防災」を目的にテーマを設定し、防災について考えることで、知識の習得と今後の生活について防災を意識した生活を身に付ける。

参加者 （一社）大洲青年会議所メンバー18名+オブザーバー18名

概要

家族で防災を意識した生活を身に付けてもらうために体験型の防災に関する以下のプログラムを実施した。

（肱川の生き物を活用した防災センター館内ラリー、火おこし体験（火おこし物の作成、火付け）、愛媛大学防災リーダークラブによる防災ワーク（新聞紙スリッパづくり・目隠し避難体験）、防災食づくり（カレー）、大洲地区広域消防事務組合による水消火器体験、・肱川の魚釣りゲーム（幼児向け）

※その他、お楽しみ企画として家族向けにかき氷の提供とスイカ割りを実施した。

事業の様子



家族例会の様子



火おこし体験



防災食カレーの食事



防災食カレーの食事



館内ラリー



水消火器体験



集合写真



お楽しみ企画 スイカ割り・かき氷



委員長所見

今回、防災をテーマに研修目的を設定し、家族がそれぞれ防災について考える機会を持てるように体験型のプログラムを実施した。特に、日常生活の中で活用しやすい、新聞紙スリッパや火おこし体験、防災食カレーを活用することで、身近な物を意識することで興味関心を深めることができたと考える。また、大洲市防災センターについて、防災センターがどのような施設なのかを知らないという意見も多かったことから、会場も防災センターを設定し、防災センターについて見てもらうことができた。なお、大洲市防災センターからも子供達が来所された際に、防災センターで提供できる子供向けのプログラムがないということから実際に現地で活動することで、防災センターのプログラム開発の一助とすることもできた。

家族例会ということもあり、様々な年齢層の参加者が多かったことから、プログラムの柔軟な設定が必要であったが、全体で動くマスプログラムとしてしまったことでプログラムについていけない参加者も出てしまったため、上記の引継ぎ事項に記載したようにエスケープルートを設けて、今後、多様な参加者を設定する場合は誰もが参加しやすい環境を提供できるように配慮していきたい。

(総務・広報委員会委員長：大藤 毅)